



春日小だよ

令和6年11月29日
練馬区立春日小学校
校長 後藤 京子
学校通信 12月号

演者の力を引き出した会場の声～みんなで盛り上げた学芸会～

校長 後藤 京子

鮮やかな紅葉の頃となってきました。先日の学芸会にはたくさんの保護者の方、地域の方にご参観いただきましてありがとうございます。「素晴らしい学芸会だった」との感想をいただきました。私もそのように思いました。子供たちは台本をもらったその日から本番まで一生懸命練習をし、セリフや動きとも毎日同じ表現がないと思えるくらい、工夫をし、友達と意見を交流しながら創り上げてきました。職員も音楽、照明、効果音、幕の開閉等、少ない人数でありましたが、総力を挙げて子供たちの力を最大限に引き出せるようにと取り組んでまいりました。また、保護者の方には、衣装や小道具など、ご準備いただきました。児童鑑賞日には、今までにない演者の「のり」のある姿がありました。それは、客席の子供たちの反応があったからです。「えーっ？」というおどろいた声、「そっちに行っちゃだめだよ」という主人公に呼びかける声等があったからこそです。改めて、表現とは、どんなに表現者が能力を発揮しても、観客の反応がなければ実現できないものだということを考えさせられました。

『言いたいことは、面と向かって言うもんだ。』『そうよ、私たちには声がある。』『うれしい声 かなしい声 やさしい声 おこった声』『話すときの顔だって大切だ』『おたがい顔を見ながら話さなくっちゃ、気持ちなんてつたわらないよ』各学年、セリフの中で観客に投げかけられているだろうと思う言葉が印象的でした。

さて、本校は、教師の指導力向上を目指し、研究を進めています。今年度の研究のテーマは、「今や未来を自分事として考えられる児童」、サブテーマは、「E S Dの視点に立った主体的・協働的な学びを通して」として、SDG sの研究を1教科に絞らず、教科横断的に取り組んでいます。各学年1回の研究授業と講師の先生方による講演会を行っています。E S Dは、「持続可能な開発のための教育」と訳されます。世界の気候変動、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の様々な問題を、自らの問題として、主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで問題の解決につながる新たな価値観や行動の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。

先日、南校庭にある桜の木に花が咲いているのを本校の児童が見付けました。11月になっても、初夏を思わせるような温かい、いいえ汗ばむような気温の日が続いたことで、桜も季節を勘違いしてしまったのでしょうか。子供たちはこの桜の花がこのまま、冬も咲き続けるのか、それとも、来年の春にも新しい花が咲くのか興味をもって見ています。また、給食の残飯が多いことから、残食をコンビニのおにぎり（110グラム）に換算して、何個分残ったかを6月、11月、2月に調べます。11月は6月に比べ、明らかにおにぎりの数が減りました。実社会や実生活の中から、問いを見だし自分で課題を立て、情報を集めます。体験を通して知ったこと、考えたことを子供たちが意見交流をしながら、整理・分析してまとめ、発表していきます。

春日小の子供たちの学びに、そしてそれを支える教師の指導に、今後ともご支援、ご協力を引き続きお願いいたします。

